

全国小学生クロスカントリーリレー研修大会の競技運営に関する 小学生競技者の満足度調査 — 2008年の大会を中心に —

岡野 進¹⁾ 伊藤 宏²⁾ 阿保雅行³⁾

1) 明海大学 2) 静岡大学 3) 東京外国語大学

I. 研究目的

陸上競技大会の競技運営のあり方を検討する視点としては、競技規則（ルール）を始めとして、競技運営に直接に関わる審判員の養成や研修、競技補助員への対応、競技者やコーチへの対応、そして観客（テレビ等の視聴者含む）への対応等が重要であるといわれている。

とりわけ小学生競技者からみた競技運営の満足度・改善度に関する研究としては、阿保・伊藤・岡野（2007、2008）の研究があげられる。しかしこれらの研究は、対象が小学生であるが、陸上競技場におけるトラック競技とフィールド競技の競技運営に関する満足度・改善度にポイントが置かれていた。

本研究の目的は、小学生を対象としたクロスカントリーリレーの望ましい競技運営を検討するために、特に競技と選手村の運営に関する満足度アンケート調査を実施し、満足度・改善度を数値化することにある。

本研究の性格としては、スポーツ経営学的視点でいうと、全国大会レベルの競技運営に係わる施設用具や諸サービスに対して小学生（競技者）がどの程度満足しているか、また不満足であるかなどを評価する、いわゆる顧客満足度（Customer Satisfaction）調査である。

II. 研究方法

1. 調査内容

アンケート調査票の内容については指導と研修会、宿舎、付帯施設、競技運営、小学生に対する審判員の対応を視点とする5つの領域とした。そして、満足度に関する項目は、以下の20項目とした。1)

小学校体育館での研修会、2) 宿舎の部屋、3) 宿舎の食事（内容・量・食事時間など）、4) 宿舎での他県小学生との交流、5) 競技会場への移動バス、6) 競技会場の更衣室（広さやきれいさ）、7) 競技会場のトイレ（数やきれいさ）、8) 競技会場の荷物置き場（衣類やシューズなど）、9) 競技会場における水（ペットボトル等）のサービス、10) ウォーミングアップの時間（長さ）、11) ウォーミングアップ場における係員の対応、12) 招集所における係員の対応、13) スタート（中継地点）における係員の対応、14) クロスカントリー・コースにおける係員の対応、15) スタート案内や結果発表のしかた（アナウンス含む）、16) 選手注意事項や競技ルールに関する指導・助言、17) 競技会におけるマナーやエチケットの指導・助言、18) 開会式や閉会式の挨拶や時間（長さ）・運営、19) 表彰式のやり方や運営、20) 総合的な評価（宿舎や競技会など）。

なお、調査項目については、主催者をはじめ、運営協力（団体または組織など）、競技場などの経営管理者が操作可能なものに限定すべきであると考えられるが、一部の項目については、小学生（競技者）の意見を求めるために、あえて採用した。

満足度の質問項目に対する回答は5段階尺度とし、具体的には、「5点：満足、4点：やや満足、3点：ふつう、2点：やや不満、1点：不満」とした。

2. 調査方法・回収状況・有効標本数

全国クロスカントリーリレー研修大会は、2008年3月22日（土）～23日（日）の2日間（1泊2日）の日程で行われた。競技会の種目は、友好タイムトライアルとクロスカントリーリレーであった。アンケート調査票は、監督・代表者会議で配布し、大会終了後、(財) 日本陸上競技連盟事務局に郵送しても

表1 標本の特性

1) 性別	① 男子	136(49.8)	② 女子	137(50.2)		
2) 学年	① 5年生	63(23.1)	② 6年生	207(75.8)	③ 無回答	3(1.1)
3) 出場回数	① 初めて	241(88.3)	② 2回目	22(8.1)	③ 無回答	10(3.6)
4) 出場種目	① 友好タイムトライアル	69(25.3)	② クロスカントリーリレー	202(74.0)	③ 無回答	2(0.7)
5) 参加の動機・目的						
	① 走ることが好きだから	72(26.4)	② 他人に勝ちたいから	3(1.1)		
	③ 健康体力の維持増進のため	7(2.6)	④ 自己記録の樹立をしたいから	77(28.2)		
	⑤ 友人や仲間との友好のため	24(8.8)	⑥ チーム優勝や入賞を目指して	76(27.8)		
	⑦ 無回答	14(5.1)				

注) 標本数 (全体 n=273) , 表中の数字 (人数, %)

表2 性別の平均値比較

項 目	1. 男子 n=136		2. 女子 n=137		全 体 n=273		平均値 間の比 較
	AV	SD	AV	SD	AV	SD	
2) 宿舍の部屋	4.50	0.90	4.38	0.98	4.44	0.94	
10) ウォーミングアップの時間(長さ)	4.08	1.07	4.14	1.01	4.11	1.04	
5) 競技会場への移動バス	4.10	0.93	3.98	0.99	4.04	0.96	
3) 宿舍の食事 (内容・量・食事時間など)	4.16	1.01	3.81	1.08	3.98	1.06	**
16) 選手注意事項や競技ルールに関する指導・助言	3.86	1.08	3.87	0.94	3.87	1.01	
15) スタート案内や結果発表のしかた (アナウンス含む)	3.94	1.12	3.78	1.15	3.86	1.13	
14) クロスカントリー・コースにおける係員の対応	3.91	1.05	3.78	1.08	3.85	1.06	
19) 表彰式のやり方や運営	3.92	1.15	3.73	1.10	3.82	1.12	
17) 競技会におけるマナーやエチケットの指導・助言	3.83	1.08	3.79	0.94	3.81	1.01	
13) スタート (中継地点) における係員の対応	3.75	1.20	3.77	1.07	3.76	1.14	
11) ウォーミングアップ場における係員の対応	3.69	1.15	3.67	1.07	3.68	1.11	
12) 招集所における係員の対応	3.63	1.12	3.56	1.09	3.60	1.11	
4) 宿舍での他県小学生との交流	3.71	1.16	3.39	1.18	3.55	1.18	*
9) 競技会場における水 (ペットボトル等) のサービス	3.66	1.20	3.45	1.15	3.55	1.18	
6) 競技会場の更衣室 (広さやきれいさ)	3.69	1.03	3.37	1.06	3.53	1.06	*
8) 競技会場の荷物置き場 (衣類やシューズなど)	3.55	1.12	3.44	1.11	3.50	1.12	
18) 開会式や閉会式の挨拶や時間 (長さ)・運営	3.58	1.26	3.43	1.25	3.50	1.26	
7) 競技会場のトイレ (数やきれいさ)	3.48	1.19	3.08	1.19	3.28	1.20	**
1) 小学校体育館での研修会	3.29	1.13	3.18	1.02	3.23	1.08	
20) 総合的評価	4.13	1.06	3.97	0.95	4.05	1.01	

注) 標本数(n=273), AV:平均値 SD:標準偏差, *:p<0.05 **:p<0.01

注) 項目の順序は、全体の平均値の高い方から低い方に並べた。

らって回収した。400人(50チーム)の小学生参加者(予定)の中から、40チーム(319人)の回答が得られた。本研究では、満足度の項目として、20項目(上述)を取り上げたが、それらの中で1項目でも無回答があった46標本については削除した。従って、本研究で用いた有効標本数は273(85.6%)

であった。

3. データ処理

満足度と改善度の求め方、即ち得点化の手続きについては、管(2004)の分析方法に基づいて行った。まず各質問項目の評価については、①「不満」と「や

表3 競技運営に関する満足度・改善度

項目	満足度の区分			独立係数	独立係数 偏差値	満足率 偏差値	距離	角度	修正 指数	改善度 指数
	1. 悪い %	2. 普通 %	3. 良い %							
18)	22.3	24.9	52.7	0.3411	60.39	44.35	11.83	16.47	0.817	9.67
19)	10.6	27.5	61.9	0.4027	69.98	52.21	20.10	51.31	0.430	8.64
17)	7.7	31.1	61.2	0.3832	66.95	51.61	17.03	50.42	0.440	7.49
12)	14.3	33.3	52.4	0.3013	54.19	44.10	7.24	9.62	0.893	6.47
8)	15.8	34.1	50.2	0.2822	51.21	42.22	7.87	36.17	0.598	4.71
6)	12.1	41.8	46.2	0.2546	46.92	38.81	11.61	60.38	0.329	3.82
16)	7.7	28.9	63.4	0.3427	60.64	53.49	11.20	63.15	0.298	3.34
7)	25.6	30.8	43.6	0.2256	42.40	36.59	15.41	74.54	0.172	2.65
9)	13.2	38.8	48.0	0.2426	45.05	40.34	10.85	72.13	0.199	2.16
15)	13.9	18.7	67.4	0.3276	58.29	56.90	10.79	84.77	0.058	0.63
13)	13.9	23.4	62.6	0.2918	52.71	52.80	3.90	90.93	-0.010	-0.04
1)	24.2	35.2	40.7	0.1690	33.58	34.11	22.85	90.94	-0.010	-0.23
14)	8.4	27.1	64.5	0.2961	53.38	54.42	5.56	97.59	-0.084	-0.47
11)	13.2	27.8	59.0	0.2602	47.79	49.73	2.23	128.03	-0.423	-0.94
4)	15.8	34.8	49.5	0.1597	32.13	41.62	19.74	109.87	-0.221	-4.36
3)	10.6	18.7	70.7	0.2491	46.06	59.71	10.48	157.08	-0.745	-7.81
5)	3.7	26.7	69.6	0.2340	43.71	58.78	10.80	170.61	-0.896	-9.68
2)	6.2	5.9	87.9	0.2509	46.34	74.39	24.66	143.53	-0.595	-14.67
10)	8.4	16.1	75.5	0.2000	38.41	63.81	18.03	175.00	-0.944	-17.02
平均値			59.3	0.2744						
標準偏差			11.7	0.0642						
20)	6.2	20.9	72.9							

注1) 標本数 (n=273)

注2) 項目は、改善度指数の大きい方から小さい順に並べた。

- | | |
|-----------------------------|----------------------------|
| 1) 小学校体育館での研修会 | 11) ウォーミングアップ場における係員の対応 |
| 2) 宿舎の部屋 | 12) 招集所における係員の対応 |
| 3) 宿舎の食事 (内容・量・食事時間など) | 13) スタート (中継地点) における係員の対応 |
| 4) 宿舎での他県小学生との交流 | 14) クロスカントリー・コースにおける係員の対応 |
| 5) 競技会場への移動バス | 15) スタート案内や結果発表のしかた |
| 6) 競技会場の更衣室 (広さやきれいさ) | 16) 選手注意事項や競技ルールに関する指導助言 |
| 7) 競技会場のトイレ (数やきれいさ) | 17) 競技会でのマナーやエチケットの指導助言 |
| 8) 競技会場の荷物置き場 (衣類やシューズなど) | 18) 開会式や閉会式の挨拶や時間 (長さ) ・運営 |
| 9) 競技会場における水 (ペットボトル) のサービス | 19) 表彰式のやり方や運営 |
| 10) ウォーミングアップの時間(長さ) | 20) 総合的評価 |

や不満」を「悪い」、②「ふつう」を「普通」、③「やや満足」と「満足」を「良い」という3段階に操作し、3段階 (悪い、普通、良い) の回答数及び割合 (%) を算出し、「良い」の割合を「満足率 (良い)」とした。次に改善度の求め方については、各評価項目 (19項目) と総合評価とのクロス集計を行って独立係数を算出した。そして満足率偏差値と独立係数偏差値を算出して図示し、図中の項目の位置から交点までの角度や距離を測定して数式に代入することで、改善度指数を算出した。

管 (2006) は改善度指数が10以上の項目は「即改善」、5以上の項目は「要改善」、そして、負 (マイナス) の項目は「改善不要」と指摘している。尚、満足度に関する全体的傾向を把握するために5段階尺度を用いて平均値と標準偏差を求めた。

Ⅲ. 結果と考察

1. 標本の特性

標本の特性は次の通りであった (表1)。

①性別については、男女の割合はほぼ1：1であった。②学年については、5年生対6年生の割合は約1：3であった。③大会出場回数については初出場者の多い大会であった。④出場種目については、友好タイムトライアルとクロスカントリーリレーの割合は約1：3であった。

2. 満足度の全体的傾向

(1) 平均値の比較

まず全体的傾向として(表2)、満足度の平均値の高い項目は、「2) 宿舍の部屋(4.44)」、次に「10) ウォーミングアップの時間(長さ)(4.11)」、「5) 競技会場への移動バス(4.04)」の順であった。一方、満足度の平均値の低い項目は、「1) 小学校体育館での研修会(3.23)」と「7) 競技会場のトイレ(数やきれいさ)(3.28)」であった。

そして性別の比較を行った結果、「3) 宿舍の食事(内容・量・食事時間など)」「4) 宿舍での他県小学生との交流」「6) 競技会場の更衣室(広さやきれいさ)」「7) 競技会場のトイレ(数やきれいさ)」の4項目に有意差が認められ、すべてで男子の平均値が女子よりも高かった。

3. 満足度—満足率(良い)に着目した場合—

総合的評価の満足度(即ち、満足率(良い)の場合)は、72.9%であった(表3)。

各項目の満足率(良い)をみると、80%台は「2) 宿舍の部屋」の1項目、70%台は「10) ウォーミングアップの時間(長さ)」「3) 宿舍の食事(内容・量・食事時間など)」の2項目、60%台は「5) 競技会場への移動バス」「15) スタート案内や結果発表のしかた(アナウンス含む)」「14) クロスカントリー・コースにおける係員の対応」「16) 選手注意事項や競技ルールに関する指導・助言」「13) スタート(中継地点)における係員の対応」「19) 表彰式のやり方や運営」「17) 競技会におけるマナーやエチケットの指導・助言」の7項目、50%台は「11) ウォーミングアップ場における係員の対応」「18) 開会式や閉会式の挨拶や時間(長さ)・運営」「12) 招集所における係員の対応」「8) 競技会場の荷物置き場(衣類やシューズなど)」の4項目であった。そして50%未満は「4) 宿舍での他県小学生との交流」「9) 競技会場における水(ペットボトル等)のサービス」「6) 競技会場の更衣室(広さやきれいさ)」「7) 競技会場のトイレ(数やきれいさ)」「1) 小学校体育館での研修会」の5項目であった。

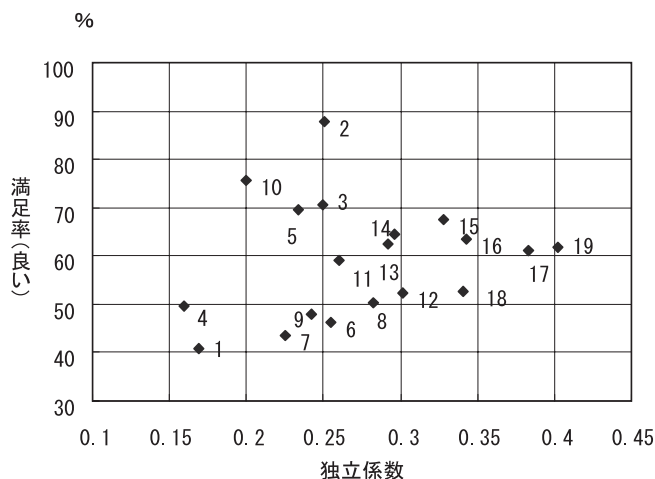


図1 満足率(良い)と独立係数の関係

4. 改善度

改善度を求める手続きについては、前述に示したように、まず「満足率(良い)」と「独立係数」の関係を明らかにし、次に満足率偏差値と独立係数偏差値をもとに「改善度指数」を算出した。

(1) 満足率(良い)と独立係数の関係

大会運営の総合評価に寄与する貢献度を独立係数でみると(図1)、「19) 表彰式のやり方や運営(0.4027)」が最も高く、次に「17) 競技会におけるマナーやエチケットの指導・助言(0.3832)」「16) 選手注意事項や競技ルールに関する指導・助言(0.3427)」「18) 開会式や閉会式の挨拶や時間(長さ)・運営(0.3411)」「15) スタート案内や結果発表のしかた(アナウンス含む)(0.3276)」等が続く。

独立係数は高いが満足率(良い)が比較的低い項目の例としては、「19) 表彰式のやり方や運営」があげられる。この項目の独立係数は0.4027で最も高かったが、満足率は61.9%で第9番目であった。即ち、この項目は大会運営の総合評価を高める重要な要因であるにもかかわらず、相対的に低い満足率(評価)となっているので、今後、改善すべき項目であると考えられる。同様に、「17) 競技会におけるマナーやエチケットの指導・助言」と「16) 選手注意事項や競技ルールに関する指導・助言」の項目は、独立係数がそれぞれ第2位と第3位と高い位置づけであったけれども、満足率(良い)はそれぞれ第10位と第7位という低い位置づけであった。これらの項目も今後の課題であると考えられる。

一方、「10) ウォーミングアップの時間(長さ)」と「2) 宿舍の部屋」の項目は、独立係数がそれぞれ0.2000(第17位)と0.2509(第12位)であったが、満足率(良い)は、それぞれ第2位(75.5%)と第1位(87.9%)であった。小学生(競技者)から高

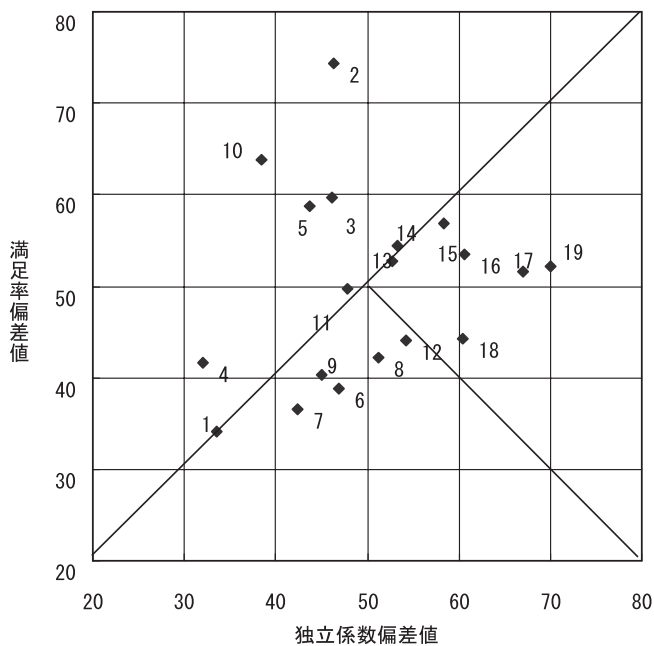


図2 満足率偏差値と独立係数偏差値の関係

く評価された項目であったと考えられる。

(2) 改善度指数

管(2004)の方法によって、まず満足率偏差値と独立係数偏差値を算出して図示し(図2)、次に改善度指数を算出した(図3)。値が正(プラス)の項目が今後改善すべき項目であり、10項目が認められた。管(2006)によると、「改善度指数が5.0以上の場合には要改善、10以上は即改善である」ことから、即改善すべき項目は認められなかった。しかし、要改善としては4項目、具体的には「18) 開会式や閉会式の挨拶や時間(長さ)・運営(9.67)」「19) 表彰式のやり方や運営(8.64)」「17) 競技会におけるマナーやエチケットの指導・助言(7.49)」「12) 招集所における係員の対応(6.47)」があげられる。なお、次に示す改善度指数が5.0未満の6項目は要

改善でないとしても、準改善項目として認識して競技運営を行うべきである。具体的には「8) 競技会場の荷物置き場(衣類やシューズなど)(4.71)」「6) 競技会場の更衣室(広さやきれいさ)(3.82)」「16) 選手注意事項や競技ルールに関する指導・助言(3.34)」「7) 競技会場のトイレ(数やきれいさ)(2.65)」「9) 競技会場における水(ペットボトル等)のサービス(2.16)」「15) スタート案内や結果発表のしかた(アナウンス含む)(0.63)」である。

一方、改善度の値が負(マイナス)の項目は改善不要である。具体的には9項目、即ち「13) スタート(中継地点)における係員の対応(-0.04)」「1) 小学校体育館での研修会(-0.23)」「14) クロスカントリー・コースにおける係員の対応(-0.47)」「11) ウォーミングアップ場における係員の対応(-0.94)」「4) 宿舎での他県小学生との交流(-4.36)」「3) 宿舎の食事(内容・量・食事時間など)(-7.81)」「5) 競技会場への移動バス(-9.68)」「2) 宿舎の部屋(-14.67)」「10) ウォーミングアップの時間(長さ)(-17.02)」があげられる。

IV. まとめ

本稿の目的は、全国小学生クロスカントリーレー研修大会の競技運営に関する満足度・改善度を小学生(競技者)を対象としたアンケート調査から分析し、今後の競技運営に関する課題をより明確化することであった。

結果をまとめると、以下のようなになる。

(1) 競技運営に関する満足度について—満足率(良い)の視点から—

- ①総合的評価の満足率(良い)は、72.9%であった。
- ②各項目の満足率(良い)については、50%以上

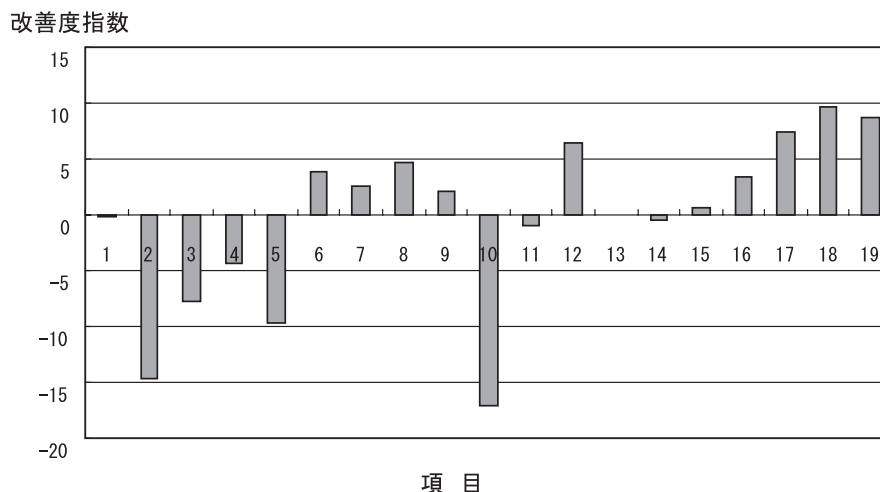


図3 改善度 - 改善度指数 -

が「2) 宿舎の部屋」「10) ウォーミングアップの時間(長さ)」「3) 宿舎の食事(内容・量・食事時間など)」等の14項目、50%未満が「4) 宿舎での他県小学生との交流」「9) 競技会場における水(ペットボトル等)のサービス」等の5項目であった。

(2) 競技運営に関する改善度について－改善度指数の視点から－

改善度指数が10以上(即改善)の項目は1項目も認められなかったが、改善度指数5以上(要改善)は「18) 開会式や閉会式の挨拶や時間(長さ)・運営(9.67)」「19) 表彰式のやり方や運営(8.64)」等の4項目が、改善度指数5未満(準改善)は「8) 競技会場の荷物置き場(衣類やシューズなど)(4.71)」「6) 競技会場の更衣室(広さやきれいさ)(3.82)」「16) 選手注意事項や競技ルールに関する指導・助言(3.34)」等の6項目が認められた。一方、改善度指数の値が負(マイナス)の項目は改善不要であって、「10) ウォーミングアップの時間(長さ)(-17.02)」「2) 宿舎の部屋(-14.67)」「5) 競技会場への移動バス(-9.68)」「3) 宿舎の食事(内容・量・食事時間など)(-7.81)」等の9項目が認められた。

付記及び謝辞

本研究は、(財)日本陸上競技連盟普及委員会の調査研究(2007年度)によっておこなわれた研究成果の一部である。アンケート調査の実施にあたって、時間をさいて快く協力して下さった小学生や指導者・コーチの皆さんに厚く感謝申し上げる次第である。また、アンケート調査用紙を配布、回収して下さった(財)日本陸上競技連盟普及委員会や事務局の方々から感謝申し上げる次第である。

参考文献

- 阿保雅行・伊藤宏・岡野進(2007) 全国小学生陸上競技交流大会の競技運営に関する満足度・改善度について. 陸上競技研究紀要、第3巻、pp.32-38.
- 阿保雅行・伊藤宏・岡野進(2008) 全国小学生陸上競技交流大会に参加した小学生競技者の競技運営に関する満足度・改善度について(その2). 陸上競技研究紀要、第4巻、pp.26-33.
- 阿保雅行・長野史尚・神尾正俊・石井智也・関岡康雄(2008) 競技運営に関する競技補助員の満足度・改善度－日本学生陸上競技個人選手権大会2008

- を中心に－. 陸上競技研究75:43-48.
- 管 民郎(2004) すべてがわかるアンケートデータの分析. 現代数学社.
- 管 民郎(2006) らくらく図解統計分析教室. 現代数学社.